

「DARC de WRAP(薬物依存回復の ための元気回復行動プラン)の普及」 事業報告書

団体名:(特)大分DARC
担当者名:鈴木 貴博

「DARC de WRAP(薬物依存回復のための元気回復行動プラン)の普及」 事業進行報告書

報告日付:2019年2月 17日
事業ID:2017446932
事業名:DARC de WRAP
団体名:(特)大分DARC
代表者名:河村 郁男
担当者名:鈴木 貴博
TEL:080-4275-7503

〈事業の実施状況〉

①WRAP セミナー 北九州 体験ワークショップ

日 時 平成30年6月10日(日) 13:00~16:00 (12:30開場)

場 所 北九州市立男女共同参画センター・ムーブ 小セミナールーム
(福岡県北九州市小倉北区大手町11-4)

参加費 無料

対 象 ダルク等の依存症回復支援施設スタッフ及び依存症支援に関わっている医療・
行政・福祉等の関係者(定員30名程度)

プログラム ・WRAPとは? ・WRAPの実際(大分ダルクでの実施報告)
・体験WRAP(元気の道具箱等) ・質疑応答

ファシリテーター 坂本 明子(久留米大学)、八谷 隆之(河村クリニック)

参加者数:8名(ダルク関係者2名、県職員1名、医療関係者3名他一般参加者)

総評:初めてのセミナーという事もあり、参加者の少なさから広報・関係機関との連携という面で問題を感じた。セミナーは体験型という形式を取った事で、講義だけではなく実際に行う事でWRAPの雰囲気を感じてもらうことができた。

②WRAP 集中クラス 大分

日 時 平成30年6月16日(土)～17日(日) 9:30～16:00

場 所 大分 DARC デイケアセンター (大分県大分市府内町 3-7-19 藤本ビル 3 階)

参 加 費 3,000 円 (ダルク関係者、当事者、ご家族は 1,000 円)

対 象 ダルク等の依存症回復支援施設スタッフ及び依存症支援に関わっている医療・行政・福祉等の関係者、WRAP に興味があつて両日参加できる方 (定員16名程度)

ファシリテーター 坂本 明子 (久留米大学)、八谷 隆之 (河村クリニック)

参加者：14名

総評：事業目標であるダルク関係者に対してWRAPの周知を図る件に対しては、佐賀ダルクスタッフ一名、ダルク支援者三名(司法関係機関)、その他医療関係者複数名が参加し一定の理解を得ることができた。参加人数は定員に迫るものの目標には満たなかった事が反省点として挙げられる。他県からの参加もあり、DARCdeWRAP の関心が高まっていることが見受けられる。

③WRAP セミナー 大分 体験ワークショップ

日 時 平成30年8月19日(日) 13:00～16:00 (12:30開場)

場 所 J:COM ホルトホール大分408会議室 (大分県大分市金池南1丁目5-1)

参 加 費 無 料

対 象 ダルク等の依存症回復支援施設スタッフ及び依存症支援に関わっている医療・行政・福祉等の関係者 (定員40名程度)

プログラム ・WRAP とは? ・WRAP の実際 (大分ダルクでの実施報告)
・体験 WRAP (元気の道具箱等) ・質疑応答

ファシリテーター 坂本 明子 (久留米大学)、八谷 隆之 (河村クリニック)

参加者：18名

総評：北九州でのセミナーでの参加人数の少なさという反省点から、広報に力を入れ、医療機関や司法・行政は元より、教育機関(大学・医療技術者養成校など)にも広報の幅を広げる。結果的に前回のセミナーの人数は上回ったが、定員には満たなかった。今後の改善策として、更に広報の幅を広げることや、地域の活動団体(自助グループ、保護司会、作業療法士協会、精神

保健福祉協会など)への働きかけを強めていく事を検討する。今回のセミナーは、宮崎 DARC スタッフ二名、依存症家族会から二名、大分県障害福祉課から二名、依存症専門の臨床心理士などダルク関係者の参加者が増えてきている事が見受けられた。セミナー参加後は積極的な質疑応答もあり関心の高さが伺えた。

④WRAP 集中クラス 大分

日 時 平成30年11月17日(土)～18日(日) 9:30～16:00

場 所 大分 DARC デイケアセンター (大分県大分市府内町 3-7-19 藤本ビル 3 階)

参 加 費 3,000 円 (ダルク関係者、当事者、ご家族は 1,000 円)

対 象 ダルク等の依存症回復支援施設スタッフ及び依存症支援に関わっている医療・行政・福祉等の関係者、WRAP に興味があつて両日参加できる方 (定員16名程度)

ファシリテーター 秋山 千歳 (訪問看護ステーション ひかりあ)
八谷 隆之 (河村クリニック)

参加者：13名

総評：本事業で二回目の集中クラスという事で多方面の業種からの参加が目立った。これまで医療職が大半であったが、行政、教育、薬物家族の会から参加されるなど WRAP の多様性が認知されつつあるように見られた。セミナーで関心を持ち参加される方もあり着実に地域や関係機関に WRAP が広がっていく実感を得られた。また医療職でも市外や県外から参加される方もあり、DARC や WRAP に関して広く認知が深まった。全体的に明るい雰囲気、子供と一緒に家族で参加される方もあり、誰もが参加しやすい会である事が体験できるクラスとなった。

⑤WRAP ファシリテーター養成研修 大分

日 時 平成30年12月22日(土)～26日(水) 9:30～18:00

場 所 大分市コンパルホール 305 (大分県大分市府内町 1-5-38 3 階)

参 加 費 30,000 円 (ダルク関係者、当事者、ご家族は 10,000 円)

対 象 ダルク等の依存症回復支援施設スタッフ及び依存症支援に関わっている医療・行政・福祉等の関係者、WRAP に興味があつて両日参加できる方 (定員18名)

ファシリテーター 坂本 明子 (久留米大学)、増川 ねてる (NPO 法人東京ソテリア)

参加者：18名

総評：今回が大分県で初の WRAP ファシリテーター養成研修となる。参加者は広く県外から東京、大阪、高知、島根、宮崎、長崎、佐賀、福岡から来県される。中でも DARC スタッフが 4 名参加し WRAP 導入に積極的な姿勢が見られた。また医療福祉専門校の教師や医療スタッフ、行政機関の相談員などが強く WRAP に関心を示されていた。全日程 5 日間の研修であったがアドバンスファシリテーターのコーディネートで WRAP 実施に関しての基礎から実践の専門的な手法までを全参加者が学ぶことができた。本事業によって 18 名(内 4 名 DARC スタッフ)の WRAP ファシリテーターが新たに生まれた。大分県では医療、福祉、行政、教育の分野での WRAP の導入が期待できる運びとなった。

⑥WRAP セミナー 佐賀 体験ワークショップ

日 時 平成 31 年 1 月 27 日 (日) 13:00～16:00 (12:30 開場)

場 所 さがセレニティークリニック(佐賀県佐賀市鍋島 3-2-4)

参 加 費 無 料

対 象 ダルク等の依存症回復支援施設スタッフ及び依存症支援に関わっている医療・行政・福祉等の関係者 (定員 40 名程度)

プログラム ・WRAP とは? ・WRAP の実際 (大分ダルクでの実施報告)
・体験 WRAP (元気の道具箱等) ・質疑応答

ファシリテーター 坂本 明子 (久留米大学)、八谷 隆之 (河村クリニック)

参加者： 24 名

総評：本事業の最後のセミナーとなった会であったが、参加者の関心は高く見られた。国立肥前医療センターの依存症病棟のスタッフや、さがセレニティークリニックの看護師、精神保健福祉士などアディクション関連の援助職の方の参加が目立った。会場提供して頂いたさがセレニティークリニックは佐賀 DARC と連携しており、院内の WRAP プログラム導入を前向きに検討している。また国立肥前精神医療センターでも継続して参加してみたいとの意見もあった。近県からは長崎、福岡からも来県されておりワークショップを体験することで効果を実感された様子が伺えた。

〈アンケート集計結果〉

①WRAP セミナー北九州 6月10日

【参加者内訳】

司法関係者：3名 医療関係者：1名 DARC関係者：3名 行政関係者：1名（計8名）

【満足度】

満足：5名 やや満足：1名

②WRAP クラス大分 6月16-17日

【参加者内訳】

司法関係者：3名 医療関係者：5名 DARC関係者：2名 学生：3名（計13名）

【満足度】

満足：10名 やや満足：3名

③WRAP セミナー大分 8月19日

【参加者内訳】

司法関係者：1名 医療関係者：5名 DARC関係者：4名 行政関係者：2名（計12名）

【満足度】

満足：8名 やや満足：4名

④WRAP クラス大分 11月17-18日

【参加者内訳】

医療関係者：5名 DARC関係者：2名 行政関係者：2名 教育関係者：1名（計10名）

【満足度】

満足：5名 やや満足：1名

⑤WRAP ファシリテーター養成研修 12月22-26日

【参加者内訳】

医療関係者：10名 DARC関係者：4名 行政関係者：1名 教育関係者：2名（計17名）

【満足度】

満足：16名 やや満足：1名

⑥WRAP セミナー佐賀 2019年1月27日

【参加者内訳】

医療関係者：13名 DARC関係者：7名

【満足度】

満足：11名 やや満足：1名

<WRAP 導入に関する期待、障壁、課題について>

- ・WRAP プログラムの導入により、依存症に対応した医療機関の増加が期待される。
- ・全国的に WRAP の認知度が低いことが障壁と考えられるため、今後広く周知、広報していくことが必要である。
- ・研修開催地が限られていたため、より多くの地域で実施し受講者が参加しやすい機会を設けることが今後の課題である。